
空に届く風

j

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空に届く風

【コード】

N7800F

【作者名】

j

【あらすじ】

私（響）はある日、偶然に死んでしまった。天国に行くのか地獄に行くのか、気になってた私だけど、まだこの世にいる。心残りなんてないのに。そうしてさまよっている私にいろいろな真実が明らかされる……。

街から消えた私。

人間は死んだらどこに行くのかな？

天国？地獄？

違う。

死んだらそのまま。

どこにも行けない。

だから、生きていたいって思ったけど、もう、私は死んじゃった。

お母さん達も泣いてた。もちろん私も。

私は、たまたま銀行に行ったら、変な人達が入ってきて、けんじゆうを撃った瞬間、たまたま私に直撃。

即死。でも私はまだこの世界にいる。なんで？私を撃った人達を恨んでるわけでもないし、まだ親の所にいたいとも思わない。

心残りもないのに。おかしい。

でもなんとなくぶらぶらしてみた。

「あっ！お母さん！」

私はすぐにちかずにいったが、きずいてくれるはずがなかった。

私は死んでいる。

触ろうとして腕に手を置くけど、通り抜けてしまう。

お母さんも感触すらないだろう。

死にたくなかった。

もっとお母さんのぬくもりを感じていたかった。

生きているうちに、触れるうちに……。

もうその願いも叶わない。

でも私は、見たくない物を見てしまった。

お母さんが知らない男の人と一緒にいる。

「いや……こんなの、見たくないよお、いや、いやあー！」

逃げたくても、逃げられない私は、お母さん達の後をおうことしかできなかった。

男の人は、お母さんに喋りかけた。

「私と一緒にいて、いいんですか？」

あなたのお子さん、お亡くなりになったんでしょっ?」

「はい。大丈夫ですよ。しかもそんな事、前のはなしじゃないですか。」

「前の・・・はなし?違う、違うよお、2日前じゃない!私が生んだのは、2日前!前のはなしなんかじゃない!」

「そうですか。なら、いいです。」

男の人はにっこりと笑った。

その男の人は20代後半で、普通の男の人より、顔がりりしく、かっこいい系の男の人で、背が高かった。

私は、もうどうすることも出来なくなり、やっと逃げられた。

「もうやだ、なんでこんな世界にいなきゃいけないの!?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7800f/>

空に届く風

2010年10月10日05時38分発行